

津山市保幼小連携について

1 連携の目的

近年、子どもたちの育ちが大きく変化しており、基本的な生活習慣の欠如やコミュニケーション能力の低下、自制心や規範意識の希薄化などが課題となっている。また、小学校に入学した1年生が、学校生活への不適応を示す、いわゆる「小1プロブレム」の発生が報告されており、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が求められている。

そのため、園や学校が接続の重要性を認識し、お互いの教育について理解を深め、さらにはお互いの教育の質を高め、円滑な接続をめざすことが必要である。

2 就学前の取組

社会状況の変化に伴い保育ニーズが多様化し、多様な保育施設の用意と柔軟な対応が必要となった。津山市では、これまで幼稚園と保育所（園）がそれぞれの理念と条件の下に幼児教育を担ってきたが、ともに並存する幼児教育・保育機関として、互いの役割と特色を発揮しつつ連携し機能することが必要であるという考えで、平成20年2月に「津山市幼児教育検討委員会」が発足した。津山市長から津山市における幼児教育の基本理念、あたらしい時代に対応した幼児教育のあり方に係る7項目について諮問を受けた。

【7項目】

1. 幼稚園、保育所の今後の役割とあり方について
2. 市立幼稚園の適正規模・適正配置について
3. 保育所の待機児童の解消に向けた方策について
4. 幼稚園、保育所の連携について
5. 幼稚園、保育所の保育・教育内容の統一について
6. 障害児、支援が必要な幼児に対する支援のあり方について
7. 未就園児の支援のあり方について

平成20年	2月	津山市幼児教育検討委員会発足 (私立・公立保育園・幼稚園が一堂に会し初開催)
平成21年	3月	これからの津山市の幼児教育のあり方について(答申) 「津山市における幼児教育の理念と展望」作成 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【津山市の育てたい子ども像】 すべての子どもが健康な心と身体を育み、豊かな情操と賢さを身につけ、命と自然を尊び、自信をもって他者との信頼のなかに生きることをめざす。</p> </div>

平成22年	3月	津山市公立幼稚園将来計画策定
平成23年	10月	津山市における就学前教育・保育作成委員会発足 (私立・公立保育園・幼稚園)
平成25年	3月	津山市における就学前教育・保育カリキュラム冊子完成 (教育要領・保育指針等改訂により平成30年度一部改訂)
平成25年度		津山市における就学前教育・保育カリキュラム委員会に改名
平成25年度 ～令和2年度		津山市における就学前教育・保育カリキュラム委員会主催 研修会開催(講演会、公開保育を隔年で実施)

3 連携の歩み

津山市の子どもたちが円滑に学校生活に移行するために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校の教師と共有するなど連携を図り、就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図ることを目的として、津山市保幼小接続カリキュラムを作成した。このカリキュラムを作成以後、担当者会を定期的で開催し、実態交流や意見交換を行うことで、保育者と教師のつながりを深め、お互いの教育について理解を深めている。

平成30年度	1月	津山市保幼小接続カリキュラム作成 【円滑な接続に向けてめざすこと】 1 お互いを知り分かり合う 2 保育者と教師のつながりを深める 3 カリキュラムをつなげる	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 幼児・児童の交流 保育参観 学習参観 </div>
	1月	津山市保育園(所)・幼稚園・認定こども園・小学校連携研修会 ～講話とグループ協議「保幼小連携の在り方」について～	
平成31年度	5月	津山市保幼小連携担当者会 ～協議「子どもの姿を通し、遊びから学びを捉える」～	
	10月	津山市保幼小連携研修会 ～保育参観とグループ協議「公開保育を通して」～	
	2月	津山市保幼小連携研修会 ～授業参観「歯が抜けたらどうするの」と協議～	
令和2年度	10月	津山市保幼小連携担当者会 ～協議「子どもの姿を通し、遊びから学びを捉える」～	
	1月	津山市保幼小連携担当者会 ～協議「1年生になるってことは」の映像を通して～	

4 園と学校の交流について（令和3年1月実施アンケートの結果より）

（1）実績

①例年行っている主な内容

	体験入学	交流会	給食体験	参観・観劇	運動会	その他
小学校（27校）	27校	5校	3校	6校	17校	2校
園（28園）	21園	12園	5園	7園	9園	4園

②具体的な交流活動内容

学校生活の紹介、学校探検、おもちゃづくり等工作、学習体験、プレゼントの贈呈、児童の読み聞かせ、同窓会、一緒に遊ぶ（例：昔遊び、クイズやゲーム、お店屋さんやおもちゃ屋さん、手遊び歌、かけっこ）、プール利用、季節行事の参加 等

（2）現場の感想

①小学校から

（成果）

- ・主に交流対象である新2・6年生には、上級生としての思いやりや自覚が芽生え、自己有用感をもてたり、自分の成長に気づいたりする機会となっている。
- ・新入児の様子を知ることができ、小学校生活への接続がスムーズとなる。
- ・園児、児童の実態や指導方法について教員間で共有し、相互理解が深まる。

（課題）

- ・連絡調整や打合わせ、また迎える側の準備に時間がかかる。
- ・小学校中心の企画運営となる。また、継続性のある交流となっていない。
- ・時期によっては、インフルエンザ等、健康面で配慮を要する。

②園から

（成果）

- ・小学校の様子や雰囲気を知ることができ、就学への期待や不安の軽減につながる。
- ・5年生や1年生と交流することで、児童や先生に憧れや親近感がもてる。
- ・小学校の行事に参加することで、園生活での刺激になる。
- ・職員同士が顔見知りになり、共通理解や情報共有を行いやすい。
- ・就学する園児（支援の必要な園児も含め）の様子を実際に見てもらえることができる。

（課題）

- ・交流の日程調整が難しい。
- ・人事異動により継続した交流になりにくいため、定着した交流になるような体制づくりや年間指導計画への位置づけが必要である。
- ・就学先の体験入学のみの形式的な交流になっており、児童との密な交流の場や学校生活がイメージできるような体験の場が必要である。

5 今後の連携に向けての課題と方向性

(1) 幼児・児童の交流

各学校が、心のふれ合いができる交流になるよう内容の工夫を行い実施しているが、公立幼稚園が2つに統合されてから、立地上、小学校との交流が難しくなっている。また、保育園等も立地や広範囲からの通園が増加したことで、近隣の小学校との交流が難しい園が多くなっている。継続的な交流の機会を確保していく必要がある。

(2) 学校・園全体での連携の推進

教育委員会及びこども保育課がともに、保幼小の研修会を平成30年度より定期的に実施することで、担当者レベルでの交流が進んできた。また、研修会では、お互いの教育活動を参観したり、内容について協議したりしながら、保育・教育について理解が深まってきているが、担当者内の交流にとどまっている。各学校・園全体で連携の重要性を共有し、組織的な連携の在り方を検討していく必要がある。

(3) 接続カリキュラムの活用と実践

平成30年度に「津山市保幼小接続カリキュラム」を作成することができたが、十分な活用にはいたっていない。接続カリキュラムで示された10の視点を元に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、保幼小の指導内容や指導方法等の相互理解が深まる研修を設定するなど、具体的な連携が進むよう取り組んでいく必要がある。

(4) その他

公立幼稚園では給食の実施がなく、給食でつまづく児童が多い。給食を体験する機会の設定が必要である。